

需要不足、年40兆円

需給ギャップ マイナス7.4%

4～6月

内閣府は31日、経済全体の需要と供給との差を示す「需給ギャップ」が4～6月期はマイナス7.4%になったとの試算を発表した。金額にする

と年換算で約40兆円の需が不足している。過去最大のマイナス8.0%になった1～3月期に比べれば0.6%改善したが、依然としてギャップは巨額で、日本経済は設備や労働力が過剰な状態が続いている。

需給ギャップは、実際の国内総生産（GDP）と、民間企業が持つ設備や労働力を平均的に使って生み出せる潜在GDPとの差。需要が実際のGDP、供給が潜在GDPという位置づけだ。潜在GDPが実際のGDPを

上回り、需給ギャップがマイナスになれば、需要不足・供給過剰から物価が下がりやすくなる。4～6月期に、需要側である実際のGDP成長率は実質で前期比年率3.7%増と5四半期ぶりのプラス成長になった。ただ金融危機で急落したGDP水準は依然低く、前年同期に比べればまだ6.4%のマイナスだ。

上回り、需給ギャップがマイナスになれば、需要不足・供給過剰から物価が下がりやすくなる。4～6月期に、需要側である実際のGDP成長率は実質で前期比年率3.7%増と5四半期ぶりのプラス成長になった。ただ金融危機で急落したGDP水準は依然低く、前年同期に比べればまだ6.4%のマイナスだ。